

津安芸地区良食味米推進協議会（三重県津市）

構成員：JA津安芸、三重県津地域農業改良普及センター、津市農林水産部農林水産政策課、三重県津農林水産事務所農政室、JA三重中央会、JA全農みえ、セントラル化成株式会社

背景・課題

津安芸管内では、土地利用型の農業を中心に農業振興を進めており、米の魅力発信や選ばれる産地として、種子更新や特別栽培に取り組み高品質な米の供給に努めてきた。

特別栽培米の生産者の高齢化が進み、作付面積の減少が進んでいる状況にある。



みどり戦略実現に向けて

有機資材を投入すると本当に「おいしい米」ができるのか。減農減化での栽培は、コストを抑えることが難しいかをテーマとして、①有機入り資材の栽培（化学肥料2割減）②特別栽培米（減農減化5割減）2パターンの栽培を実施する。

また、これらの取組を踏まえ、地域モデルとなる有機入り資材の栽培マニュアルを策定し、将来的に有機栽培を行う生産者への普及を目指す。

環境負荷軽減の取組

- 三重県の慣行栽培より、化学肥料の使用量低減（2割減）
- 三重県の慣行栽培より、化学肥料の使用量および農薬の使用量低減（5割減）



検討するグリーンな栽培体系

JA津安芸減農薬栽培「コシヒカリ」栽培暦

月 旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月								
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
生育ステージ	育苗期			活着期			有効分げ時期			無効分げ時期			幼穂形成期			出穂期			登熟期			成熟期		
	播種			移植			中干し			いもち病 防除			カメムシ 防除						収穫					

種子消毒

60℃10分が基準です。消毒後は低温水で十分放冷した後浸種作業に入ります。ただし浸種初期の10℃以下の低温は発芽率の低下を招くことから、13℃前後での浸種を心掛けます。低温期の出芽には、加温式の育苗期の利用が有効です。

元肥

有機資材で土づくりを行い化成肥料の削減。一発肥料については有機含有肥料で行う。

移植

栽植密度 **50～60株/坪**
分げつを確保するため、極端な疎植は控えること

土づくり

圃場の生産力の維持増進のため、稲ワラ等の全量すき込みおよび**たい肥(鶏糞等)等の施用**を行います。ただし、過剰な有機物の施用は収量、品質を不安定とさせるため、土壌診断により状態の把握に努める

肥料

収量向上には「穂数の確保」と「穂の充実」が必要
総窒素量目安 **7～8kg/10a**
総肥(出穂18～20日、10日前 計2回)：幼穂形成後期、穂ばらみ期に**センシング(ザルビオ)**を行い生育量に応じて総肥(局所施肥)をします。
※適正な基肥の施用により穂数を確保することにより収量を確保します。
※過剰な多肥栽培は倒伏および食味低下につながるため避けましょう。

除草

基本的に除草は1回。残草しないように代かきは丁寧に行う。また、後発雑草は早めに抜き取るか中後期除草剤で除草する。

病害虫防除

①いもち病
いもち病には強くないため、防除は必須
②斑点米カメムシ
近年は発生が多く、不登による収量減や斑点米の発生につながるため防除は必須

収穫

収穫適期：籾水分26～28% 出穂後35日前後
①穂充実のため、落水は可能な限り遅らせる
②開削や穂発芽を避けるため、速やかに収穫